

本校（向陽台高等学校）での EdTech 展開における

放送教育題材に類する題材の活用について

～ 問題の背景と取り組みの現況 ～

向陽台高等学校 教務部

住田 靖弘

調査と研究の背景

本校（向陽台高等学校）は、1961（昭和 36）年当時に日本紡績協会に加盟していた繊維業者約 140 社が技術者養成を目的として設立した「大阪繊維工業高等学校」を起源とし、この中に 1964 年（昭和 39 年）に設置された通信制課程が全日制部門から分離して「向陽台高等学校」と改称された歴史を持つ。そのため、設立当初は紡績工場の勤労者をはじめとした勤労学生に学習機会を提供することを目的・使命としていたが、その後、現在の数十年を経る中で、志願者や入学生の背景事情が設立当初に比べて大きく変化した。具体的には、全日制高等学校から転入してくる生徒や、小・中学校での長期不登校者が中学校卒業後に新入学してくる生徒によって在学生の大多数が占められるという現況に状況の変化が現れている。そのため、従来の通信制高等学校における学習スタイルである「教科書等を参照しながらの自学自習」を生徒に期待するに先だって、高等学校の学習内容を自学自習することに耐え得るような基礎学力（とりわけ小・中学校の学習内容に基づくもの）を培っておくことが大きな課題となった。

上記のような現状を受け、「通信制高等学校での自学自習に必要となる小・中学校内容の学習事項を学び直す仕組みを確立するにあたって放送題材を活用する」ことを目標とし、本校での調査と研究を開始した。

調査と研究の題材と方法

本校の教員数人で分担しながら、以下の各題材について内容を検証し、「小・中学校の学習内容の学び直し」に活用が可能か否かを検討した

〈 検証に用いた題材 〉

- ・ NHK for School
- ・ JM00K
- ・ 早稲田大学オンデマンド教材
- ・ Asuka Academy

検証の結果

1. JMOOK, 早稲田大阪オンデマンド教材, Asuka Academy の題材について

上記の題材群は、大学生や社会人を対象にした学習題材であり、本校で学ぶ生徒が小・中学校での学習内容を系統的に学び直すのには適していないという結論に達した。

2. NHK for school の題材について

NHK for school の題材には小・中学校の学習内容を扱っているものも多くあり、我々の目標を達成するにあたって有用であると目されたが、その一方で以下の点についての課題が存在しているとの疑義が呈された。

＜ 題材で想定されている視聴者の年齢層と本校在籍生の年齢層とのギャップ ＞

本校在籍生の主な年齢層は15歳から20歳までであるが、NHK for school にて提供されている小・中学生の学習題材を扱う動画群には学童期の児童を想定視聴者として制作されているものも多い。従って、対象動画の構成・ストーリー展開・ナレーションの調子などが本校生徒の嗜好性に一致しない可能性が残る。

＜ 個々の生徒に最適な復習題材をピンポイントで選び出すことの難しさ ＞

とりわけ数学や理科において、小・中学校内容での算数・数学の学び直しが必要になるケースが多々ある。しかしながら、その場合に生徒が必要とする復習題材は科目および生徒自身の背景によってまちまちであり、題材を一律に提供するだけでは十分な復習効果を期待することは出来ない。

＜ 科目内容の網羅性と検索利便性 ＞

「NHK 高校講座」は、高等学校の各科目における学習内容の全単元が系統的かつ網羅的に扱われており、さらに単元の目次も付されている。したがって、学習対象となる単元をトップページから検索して見つけることも容易である。しかし、NHK for School で提供されている小・中学生向けの学習題材には高校講座のような系統的・網羅的な目次が存在しないため、復習に必要な学習題材を見つけ出すためには検索上での工夫が必要になる。

＜ 学習内容の個別最適化を図る上での課題 ＞

とりわけ数学や理科において、小・中学校内容での算数・数学の学び直しが必要になるケースは多々ある。しかしながら、その場合に学習者が必要とする復習題材は科目および学習者自身の背景によってまちまちであるので、題材を個別に精選した上で学習者に提供することが必要になる。従って、学習内容の相互依存性を加味した上で学習過程のガイド

を制作して学習者に提示し、学習者の状況に相応しい学習題材とそれ以外の題材を学習者自身が弁別できるようにしておかねばならない。

今後の課題と対応

1. 小・中学校の学習内容を扱っている題材を網羅的・系統的に包含するサイトの探索

小・中学校での学習内容を網羅的に扱っており、なおかつ系統的な目次を有するサイトを現在探索中である。

以下に、2022年7月の時点で発見し得たサイトの例を数点記載する

< 公共団体や教職員によるもの >

京都教育大学の学生制作による補助教材動画

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/movie/post.html>

黒田恭史 氏（京都教育大学教育学部数学科 教授）によるサイト

「黒田先生と一緒に学ぼう！ 15分でわかる小学校算数授業動画」

<https://sansu-douga-kuroda.amebaownd.com/>

< NPO 法人や私企業によるもの >

NPO 法人 eboard 「イーボード」

<https://info.eboard.jp/>

株式会社イー・ラーニング研究所 「スクール TV」

<https://school-tv.jp/>

2. 対象者の絞り込み、および、題材の提示や課題化の時期の検討

一部のコースに在籍する生徒を除いて、本校の生徒の大半は学修する科目の順番をかなり自由に決めることができるようになっている。このような状況の中、本格的な高等学校内容の学習に臨むに先立って小・中学校内容の学び直しを生徒に課すのならば、生徒の学修計画の自由に対する介入となる。学修の自由度がある程度制限されることへの合意を得られる生徒をどのように絞り込むか、そして、その生徒に対してどの時期に題材を提示して課題化するのが相応しいか、これらのことを検討しておく必要がある。

3. 学習習慣を確立することに対するメディア題材の有効性の限界

小・中学生の学習内容（とりわけ小学校の学習内容）については、場合によっては技能

修得のためにドリルに類した題材に取り組む必要が生じることがある。このようなドリル題材は、日常生活における継続的な学習習慣を必要とするため、学童期から十代前半の時期に生活内での学習習慣を身につけていない生徒にとってはドリル学習に取り組むこと自体がハードルの一つになることが予想される。

そのため、「通信制高等学校在籍生の学習習慣の確立を目指した指導における放送・メディア題材の活用」に類した企画や研究も必要になるであろうが、これがどこまで実現性を持ち得るのかについては確信を持ってないというのが正直な思いである。

終わりに

文部科学省が平成 29 年 7 月 31 日に公表した「高等学校通信教育の質の確保・向上方策について（審議のまとめ）」においては、通信制高等学校で学ぶ生徒の背景事情の変化と、学び直しの機会の提供や自律的な学習姿勢の育成支援に対する必要性の高さが述べられている。また、去る令和 4 年 7 月 1 日（金）に行われた「全通研放送研究会中間報告」（オンラインミーティング）においても、生徒層の変化に伴って学び直し支援の必要性が生じている学校のケースの話を耳にした。

本校で感じている問題意識の多くは近畿のみならず全国の通信制高等学校でも共通して抱えている普遍的なものであると思われるので、各校の先生方の協力も得ながら通信制高等学校における良き学習支援体制を整えたいと考えている。